岩手大学震災復興推進レター

「岩手の復興と再生に」オール岩大パワーを

vol.2

発行者
国立大学法人
岩手大学
総務企画部総務広報課
〒020-8550
岩手県盛岡市上田3-18-8
TEL 019-621-6015
FAX 019-621-6014
E-mail kkoho@iwate-u.ac.jp

平成24年2月28日発行

http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml　岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

水産業の復興を目指して ―全国水産系研究者フォーラムを開催―

岩手大学は、平成24年1月7日に岩手県釜石市で、東京海洋大学と北里大学との共催で「全国水産系研究者フォーラム～全国からSANRIKUへ　岩手大学発・水産系分野の三陸研究拠点形成を目指して～」を開催しました。

このフォーラムは、水産系分野の「いわてモデル」といえる新たな研究拠点の形成を目指す取り組みの一環として開催したもので、当日は全国から水産系研究者や漁協関係者、行政関係者、一般市民など約130名の方々が参加しました。

フォーラムの前半では、平成23年10月に「三陸水産業の復興と地域の持続的発展に向けた3大学連携推進に関する基本合意書」を交わした主催3大学から、それぞれの復興に向けた取組が紹介され、後半のパネルディスカッションでは、三陸地域の水産業の復興をテーマに一般参加者を交え活発な議論が行われました。

フォーラムの最後には、参加者一同が「全国水産系研究者フォーラム宣言」を行い、三陸地域における産・学・官の取り組みが、日本及び全世界のモデルとなるようなネットワーク型研究拠点の形成につながるように、総力を結集して行動することを誓いました。

岩手大学は今後、全国の研究者と協力して、産学官の連携を図りながら、水圏環境調査から加工技術の高度化、マーケット開拓、水産業を担う人材の育成といった一連の研究開発を行い水産業の三陸独自の6次産業化を推進し、三陸沿岸地域の復興を目指していきます。

【全国水産系研究者フォーラム宣言】

本日ここに、三陸の水産復興のために集った産・学・官の有志は、その持てる力を総動員して、当該地域に係る研究・教育拠点の形成を図り、新規産業創出による復興への願いを込め、以下宣言する。

一. 学は、全国の知のネットワークを最大限に活用して、出口を見据えた新たな知を創造し、人材の育成を図る。

二. 産は、そのバイタリティを遺憾なく発揮して、可及的速やかに旧来の事業の再開を図るとともに、学によって創造された新たな技術に基づく新規事業の立ち上げにも果敢にチャレンジする。

三. 岩手県をはじめ支援団体は、速やかなインフラの復旧、地域住民が希望を持てる未来の明確なビジョンの提示を行うとともに、産や学の活動を全面的にサポートするための支援を行う。

四. 三陸地域の上記の取組が、今後、我が国及び全世界のモデルとなるようなネットワーク型拠点形成に向けて、産・学・官・民の総力を結集して行動することをここに誓う。

平成24年1月　全国水産系研究者フォーラム参加者有志一同

いわて高等教育コンソーシアム「きずなプロジェクト」を始動

いわて高等教育コンソーシアム（連携大学：岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学）は、国立大学協会「震災復興・日本再生支援事業」の支援を受け、東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸沿岸の各市町村における学生ボランティア活動「きずなプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトには約160人の学生がボランティアとして登録しており、合宿形式の事前講習会を経て既に延べ177人の学生が第1弾となった平成23年12月と平成24年1月の活動に参加しています。

第1回目の12月は、宮古市と釜石市でボランティア活動を行い、延べ108人の学生が参加しました。宮古市では津波で被災した住居の片付け、清掃のほか仮設住宅で行われたクリスマス会の運営補助を行いました。また、釜石市では被災者に支援物資を支給する青空市を開催し、会場となった団地は多くの住民で賑わいました。

第2回目の1月は、陸前高田市において活動を行い、延べ69人の学生が参加しました。他の地域に比べて被害の大きかった陸前高田市では土嚢積みなどハード面の支援活動が中心となりましたが、学生たちは協力しながら精力的に取り組みました。

参加した学生からは「またボランティア活動を行いたい」、「他大学の学生とも協力して取り組むことができて良かった」等の感想が寄せられ、このプロジェクトが有意義な活動となったことが伺われました。また、他大学の学生と協力して取り組むことにより、大学間のネットワークを広げる機会にもなったようです。

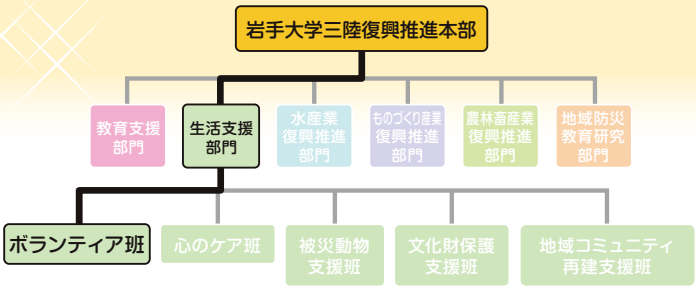
今後は2月下旬から3月上旬に第2弾の活動を行うほか、釜石市、大槌町で学習支援ボランティアも行っていく予定です。

事前講習会のグループワークの様子

釜石市で実施された青空市

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進本部を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、瓦礫の撤去や泥上げ、イベントのお手伝いなど、被災地の方々の暮らしの復興に関わる活動を行っているボランティア班をご紹介します。



学生の力で、息の長い活動を

岩手大学三陸復興推進本部　生活支援部門ボランティア班
班長　名古屋恒彦(教育学部　教授)

ボランティア班は、震災発生後の平成23年4月から、大船渡市、宮古市、陸前高田市などの沿岸都市で、復興支援活動を開始しました。以後、学生ボランティア団体「天気輪の柱」(主に宮古市で活動)及び「もりもり☆岩手」(陸前高田市で活動)、教職員ボランティアといった3本の柱を軸に、継続的な復興支援活動にあたってきました。以下、現在の活動状況を報告します。

「天気輪の柱」と「もりもり☆岩手」は、週末を基本として活動を行っています。「天気輪の柱」の活動は、宮古市の盛岡YMCA宮古ボランティアセンターとの連携のもと、活動を継続しています。最近ではいわゆる瓦礫撤去等は減り、仮設住宅等でのイベント支援に活動がシフトしてきています。メンバーはたこ焼き作り、餅つきなどを行いながら、仮設住宅等にお住まいの方々との心の交流を深めています。

「もりもり☆岩手」は、陸前高田市においてボランティアセンターの運営支援活動を継続しています。ボランティアセンターでの業務は専門性を要求されるものですが、継続的な取り組みの中で、地域の信頼を得るに至っています。併せて、現在は陸前高田市内や山田町での学習支援活動にもあたっています。

教職員ボランティアについては、今後は本務による復興推進活動を中心とするという観点から、教職員のみでの活動は終了しましたが、「天気輪の柱」による宮古市での活動で教職員の参加も受け入れています。

さらに、現在新たに、野田村での復興支援活動を行うべく準備を進めています。これは継続的な学生派遣ではなく、イベント等の折りに支援活動を行うというイメージです。また、スポーツによる、あるいはスポーツに関わる復興支援にも計画的にあたっていく方針をとっています。

いずれも地道な活動ではありますが、地元の大学として、長くボランティア活動を継続すべく、今後も粘り強い展開を、と考えています。

大船渡市での瓦礫撤去

宮古市でのイベント支援

釜石サテライトだより

釜石市街には、まだ被災したビルがそのまま残っていますが、職場のすぐ近くに、仮設の「呑(の)んべぇ横丁」がオープンし、少しずつ活気を取り戻しつつあります。

今回は、日頃の主なコーディネート活動について紹介いたします。

●企業への訪問

被災状況や大学への支援ニーズを調査するための企業訪問を行っています。

国の補助金等を活用して、工場再建の目処がついてきた企業が多くなり、一部では工事が進んでいます。

沿岸復興のため、大学と一緒に新しい産業にチャレンジしたいという企業もあります。

●漁業関係者との意見交換

浜に出向き漁業者との意見交換や車座交流会を行っています。

漁業者からは、放射線測定についての相談やワカメなど水産物を自ら販売していくために支援してほしいとの声があります。

漁協からは、地元経済にプラスになるような調査研究を進めてほしいとのことでした。

●プロジェクトの立ち上げ

地元のニーズをもとに、他大学や企業と連携した水産復興プロジェクトの計画づくりを進めています。

プロジェクトの一環として、陸上養殖でのホシガレイ飼育試験を開始しています。

漁業者との意見交換

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先　釜石サテライト
〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町15-2 釜石市教育センター5階
TEL:0193-22-4420　E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp

Information

岩手大学男女共同参画推進室シンポジウム

東日本大震災からの復興の現状とこれから ～人の多様性の視点から～

このシンポジウムでは、東日本大震災から1年を迎えるにあたり本推進室の復興支援の取り組みについてご報告するとともに、復興支援にあたる地域や全国各地の方々、本学教職員や学生と復興の現状や課題を広く共有し、これからについて一緒に考えていきます。

日時：3月16日(金) 13:30～17:00
場所：岩手大学図書館2F 生涯学習・多目的学習室
対象：一般

お問い合わせ　岩手大学男女共同参画推進室
TEL 019-621-6998

いわて高等教育コンソーシアム

東日本大震災復興と防災・減災の懇話会

北海道奥尻町総務課長の竹田彰氏を講師に迎え、過去の災害から復興した体験について基調講演をいただくとともに、竹田氏や大学の教員・職員との懇話や質疑応答を通じて震災の経験を共有し、今後の自治体での防災・減災への取り組みやメンタルヘルス面での活動について考えます。

日時：3月19日(月) 11:30～16:00
場所：岩手県釜石市教育センター 5F 研修室
(岩手県釜石市鈴子町15-2)
対象：岩手県沿岸被災自治体職員等

申込先　岩手医科大学 学務課(要申込)
TEL 019-651-5111

編集後記

震災復興推進レターvol.2をお届けします。先月のvol.1を発行してから数々の反響をお寄せいただき、改めて大学の取り組みに大きな期待と関心が寄せられていると感じました。復興推進活動は、大規模なプロジェクトもあれば、今回ご紹介したような学生ボランティアや釜石サテライトの意見交換会のように、地道な活動もあります。後者は決して派手ではありませんが、「継続することで地域の方々と信頼関係を築き、共に復興を目指す」活動は被災県にある大学にこそできる役割だと思っています。

総務広報課